

JICA-Net による遠隔技術協力システム に関わるコンテンツ開発及び実施

コース B 地域活性化手法コース

コース概要

1. 研修コースタイトル

沖縄にみる地域活性化手法と東南アジアの地域振興

ケーススタディー：共通点と隣接の活用

2. 目的

本コースは、沖縄の地域活性化の試みと教訓を紹介し、東南アジアの地域活性化手法の検討につなげようとするものである。その際に、以下の点が基本方針として想定されている。

- ・ 沖縄と東南アジア諸国の共通する地理的、自然的、文化的特質に着目する。
- ・ ケーススタディーを通じて、沖縄の教訓を東南アジア各国に応用する。
- ・ 沖縄と東南アジア各国の間で、企業レベルにおけるビジネスの連携の可能性を探り、東南アジアの地方企業が成功体験を得られるよう図る。こうした成功体験は、次への自信に繋がると共に、ロールモデルとして他企業・他地域への波及効果が期待できる。
- ・ 遠隔技術協力システムによる研修を複数国対象に実施するため、研修参加者が、参加国間においても、リアルタイムでの双方向コミュニケーションを行える点に着目する。
- ・ 遠隔技術協力システムの活用に合わせて、講師による現地でのワークショップなどの実施、充実した教材CDによる支援体制の構築、本コース専用ホームページの設置・管理によって、研修効果の最大化を図る。

3. 受講対象者

研修対象国はフィリピン、インドネシア、タイの3カ国である。研修対象者は、各国について以下の3つのグループである。

Aグループ：指導員候補（中央政府地方部門、NPO・NGOの指導者、大学院生）

Bグループ：地方経済の担い手（地方自治体、地方の企業・起業者）

Cグループ：大学生

4. 講師名・役職

主講師：吉川博也（沖縄大学 法経学部教授）

副講師：福井眞司（琉球大学 法文学部総合社会システム学科 専任講師）

JICA-Net による遠隔技術協力システム に関わるコンテンツ開発及び実施

コース B 地域活性化手法コース

5. 番組シナリオ概要

本コースは、下記のシナリオに沿って、まず沖縄の地域活性化の試み・成功事例を紹介・解説すると同時に、地域活性化戦略を策定するために必要な基礎理論を講義する。

その後、講師による現地での講義・指導と参加国間のネット配信を組み合わせる形で、各国別に講義やワークショップ（モジュール3～5）を順次開催し、地域活性化戦略の策定作業に関する指導をきめ細かく行う。ワークショップにおいては、Bグループがチームに分かれて作業を行う中で、Aグループは指導員役として参加し、Cグループは見学者としての参加を可能とする。

研修成果を計るため、A、Cグループはワークショップ終了後に到達度確認テスト、Bグループは最終日にプレゼンテーションを行う。

- (1) **モジュール1（講義）「沖縄の経験、地域活性化の基礎理論」**：
沖縄の現況・地域特性・地域活性化の教訓を紹介しながら、地域活性化を考える上で必要な経営戦略の概念や地域産業ドメインの考え方について説明する。
- (2) **モジュール2（自主学习）「地元経済における活性化ケース候補探し」**：
前回の講義を踏まえて、受講者に、地元の地域活性化を進めるに当たって考えられる問題点や制限を把握してもらった上で、いくつかのケース候補を見つけてもらう。
- (3) **モジュール3（講義/ワークショップ）「各国別に考える：地域活性化への取り組み方」**：
各国別の特性・事情に応じた、具体的な沖縄の成功モデル例を紹介し、沖縄と東南アジアとの連携の可能性の理論的検討をする。それをもとに、各国ごとに具体的なケース、テーマを絞り込む。
- (4) **モジュール4（講義/ワークショップ）「各国別に考える：地域活性化戦略の応用理論、手法・戦略」**：
前モジュールと同様、各国別の特性・事情に配慮しながら、更に進んだ企業経営手法・考え方について講義し、ワークショップ形式を通じて段階的に具体的なビジネス・モデル提案などの方法を指導する。また、プレゼンテーションの仕方についても指導する。A、Cグループの到達度確認テストを行う。
- (5) **モジュール5（自主学习）「地域活性化戦略の策定」**：
これまでのワークショップを踏まえて、受講者に地域活性化戦略のビジネス・モデルや地域（ニッチ）ブランドの確立など実践的な策定作業を実施してもらう。
- (6) **モジュール6（プレゼンテーション、議論）「地域活性化戦略の発表」**：
Bグループが、地域活性化戦略をプレゼンテーションする。それに基づいて、全グループが質疑応答や議論を行う。